



ようこうだより 9月

令和2年9月1日



園長 山崎 恵美

ふと晴れた空を見上げると、白い羽の形を描いた『すじ雲』があちらこちらに浮かんでいます。いつの間にか、夏の風物詩の入道雲から秋を知らせる雲へと空の様子も移り変わり始めたようです。

畑で大切に育てたトウモロコシが、子どもたちの背丈よりも高くなり実をならしました。子どもたちも、毎日プール・水遊びを満喫し、山や川などへ出かけるなどして夏ならではの遊びを五感でたっぷり楽しみました。手足、首、背もグンと伸び、こんがり日焼けした肌。にっこり笑うと口元から白い歯が眩しくのぞきます。夏の経験が心と身体の豊かな成長へ繋がっていることを大変うれしく思います。

来る9月5日には、0歳児どんぐり組の運動会がホールで行われます。一言で0歳児と言っても、ほぼ一日中眠って過ごす子、ようやくズリバイハイハイができるようになった子、自分の足で歩き、遊具の上り下りが自由にできる子など発達は様々です。産まれて間もない0歳児の子どもたちは大人や友だちと一体どんな姿で遊んでいるのでしょうか?…意欲を持った子どもたちは広いホールで、ただじっと座っていたり大人から抱っこばかりをされてはいません。自分から好きな場所に行き探索を楽しみます。大人と目を合わせ、指差しや表情、しぐさ、「あー、あー」などの喃語を話して“楽しい”“もっとやりたい!”と思いを伝えてくれます。乳幼児期の『人としての土台づくり』のスタートであるこの時期をじっくり、たっぷり大切に過ごしています。

まだまだ暑い日が続く9月。夏の疲れも出てきやすい季節でもあります。保育園では、新型コロナウイルス・熱中症対策を継続し安全面に配慮しながら生活を送りたいと思います。夏に十分解放した心と身体をフルに使って、“秋”を探しに散歩へ出かけ、運動会に向けても運動遊びに挑戦していきます。毎日、子どもたちが元気に過ごせるように、ご家庭でも引き続き、『早起き・早寝する』『朝ごはんをとる』などの生活リズムを整え応援していただければ大変有難く思います。

🌸 🌸 🌸 🌸 降園時のおねがい 🌸 🌸 🌸 🌸

お迎えの時間帯に玄関で保護者の方の姿が無くお子様だけの姿を目にすることがあります。また、他の保護者の方とお話しをされている間に、お子様を見失うケースもあるようです。特に玄関を抜けた先には車が行きかう駐車場があり大変危険です。玄関出入りの際の鍵閉めは声を掛け合ってください。お迎えに来られ、お子様の引き渡しをさせていただいた後に園内に滞在される場合には、安全確保のため、お子様の見守りは保護者の方へお願いすることとなります。何卒ご理解ご協力の程よろしくお願いたします。

9月~10月 行事予定

- 9月5日(土) 0歳児運動会
- 10月1日(木) お月見会
- 10月17日(土) 1~5歳児運動会 ※予備日 10/24
詳細は後日お知らせ
- 10月19日(月) 内科健康診断〈2〉
- 10月22日(木) 秋の遠足(0・1歳児) ※予備日 10/29
- 10月26日(月) 秋の遠足(2歳児) ※予備日 11/2
詳細は後日お知らせ
- 10月27日(火) 5歳児交通安全教室
※新型コロナウイルス感染防止のため
 - ・9/17 敬老の日交流会→中止
 - ・10/21~30 個人懇談(希望者のみ)→11月に延期予定



<ホールで0歳児の楽しい過ごし>



→裏面につづく



～どの子もわが子～



午後、お家の方がホールや保育室にお迎えに来られた瞬間「おかえり！」と数人の子どもたちが駆け寄っていく姿を見かけます。そして、「ただいまー」と、どの子にも笑顔で挨拶をしてくださるお家の方のやさしい声が聞こえてきます。また、お家の方と何気ない話をしている「子どもたち、みんなが…」と耳にすることもよくあります。日常の光景ですが、“どの子もわが子”のように接してくださるお家の方には頭が下がります。

今年の春は、コロナの影響で登園自粛もあり、一時期、友だちや他のお家の方と会うことも会話をする 것도ほとんどなくなりました。あの時のような寂しくひっそりとした保育園は見たことがありませんでした。

今の時代は少子化が進み、一緒に遊ぶ同じ年頃の子どもや育児の話ができる近所の方がいる環境でもなくなりました。核家族での生活は、子育てを親のみですることがほとんどで、仕事や育児で慌ただしい日々を送っておられることと思います。ましてや、コロナ収束のめどは立たず、今までの子育てに加え、常に衛生面、安全面に気遣う毎日。行き来して子育ての応援をしてくださっていたお祖父さんやお祖母さんともコロナ禍で距離をおかねばならない状況です。外出しても極力人との接触を避け、出かけた先に待っていたであろう新しい友だちづくりのチャンスも奪われているかもしれません。家で過ごすことが増え、大きい声を出して近隣の人に迷惑をかけないように気遣うなど苦労やストレスも多いのではないかと思います。

随分昔のことで恥ずかしいのですが、私自身が、まだ子育て中で(私にも若い時があったのです…)幼いわが子を連れて散歩をしたり電車に乗ったりしていると、知らない方からもよく声をかけてもらったものです。「お子さんおいくつ?」「元気なお子さんね〜」「気をつけて行ってらっしゃい!」などなど。私の親は遠くにいて頼りにすることはできませんでしたが、近所には、いつも声をかけてくれるいろいろな年齢層の大人や同じ年齢位の子どもたちがいました。未熟ながらも、周りから母親として認められている嬉しさや見守られている安心感を持ち続けることができ、小さかったわが子もすでに社会人となりました。今でも、ひと昔前に親子でお世話になった〇〇さんはお元気かな?と懐かしく思い出すことがあります。

以前、街でお子さんが機嫌を損ねて一生懸命なだめるお母さんを見かけました。何かお役に立てないかしらと話しかけると、お子さんはにっこりしてくれたのですが、お母さんは一瞬驚いたように私を見られました。それはそうです。知らない人から話しかけられたらビックリするのが当たり前です。“しまった。余計なお世話だった”と笑顔で頭を下げて失礼しました。

同じ時代に、この保育園で一緒になったご縁。みんなで子どもを見守り、子育てができたらどんなに楽しく心強いでしょう!子育てに迷った時や大変な時期に気軽に話せる仲間がいて「大丈夫よ」「私はこんな風にやってみただけ…」と言ってもらえることがあれば、肩の力がふっと抜けそうです。案外、溢れている子育て情報サイトとにらめっこするよりも、実際に顔を合わせてちょっと話をする方が安心感に包まれるのかもしれないですね。保護者同士のみならず、ぜひ、私たち保育者も気軽にその仲間に入れてもらえればうれしいなと心から思います。

人懐っこい子どもたちは、保育園で会うお家の方が大好きです。家族のように毎日出会い、目を合わせ話しかけてもらえる大人。子どもたちにとって、そんな温かな大人との触れ合いが理屈ではなく、「人ってやさしいな」「社会っていいものだな」と肌で感じ安心して社会につながるができるのではないかと思います。そして、いずれ保育園から一歩踏み出し、更に大きな集団へと入り、どんどん新しい世界が広がっていくことでしょう。

2年前に卒園した子どもたちが、春にヨモギを摘みヨモギだんごを作って食べた時のこと。「このヨモギだんごをみんなに食べさせてあげたい!街中の人に食べさせてあげたい!世界中の人にも食べさせてあげたい!!」と言葉を発した姿が今でも忘れられません。多くの友だちや温かい周りの大人に関わってもらった経験が積み重なり、“人が喜ぶことをしたい”という優しい心が育まれているのだ…と心が震えました。未来を担う子どもたちが希望を胸に成長するのに必要なのは、私たち大人が特別なことではなく“どの子もわが子”と思いをはせ、つばらな瞳を見てにっこり微笑んだり、何気ない会話を一緒に楽しんだりすることではないかと思うのです。